

巻頭言

# 大学の IT 教育環境の今とこれから

諏訪 敬祐



環境情報学部は昨年、学部開設 10 周年を経て本年 4 月から新たな飛躍の段階に入りました。この間本学部の IT 環境は常に最新の高速・広帯域のブロードバンドのネットワークインフラ及びマルチメディア情報を伝達できる情報機器を整備、拡充することにより、教職員及び学生の教育・研究に大きく貢献してきました。現在までに、e ラーニングの普及に向けて離れた 2 つ以上の教室で同時に映像・音声を配信して講義を行うことが可能な遠隔講義システム、受講生の学習進捗状況や出席状況の管理を行い、電子教材を学内ネットワークで提供できる授業支援システム (LMS: Learning Management System) などが導入されてきました。これらは、試行運用による実績をもとに本格運用へ展開されることとなります。一方、学生に対する情報リテラシー教育は 10 年を経過し、本ジャーナル第 8 号では「情報リテラシー教育 10 年の取組みと今後」を特集として学生アシスタントの座談会、教員による環境情報学部情報リテラシー教育の 10 年の座談会及び 10 年目における情報リテラシー演習カリキュラムの見直しについての論文、記事が掲載されています。いずれも過去 10 年の情報リテラシー教育をふり返るとともに今後の課題、展望などが述べられており、大学を取り巻く状況が刻々と変化している状況下においてこれからの IT 教育を実施していくうえで示唆に富む内容となっています。

IT 教育環境の最近の大きな変化としては情報管理及び情報倫理について教職員や学生への教育が重要になっていることです。社会全般においても日常的にメディアなどでインターネットを介した情報漏洩や特定の個人に対する誹謗・中傷などが報道され、大きな問題になっています。本学部においては 1 年生を対象に情報リテラシー演習の最初の授業で情報コンテンツの取扱いに関する倫理規定を遵守するように誓約書を提出してもらっていますが、情報の伝達に関してはより一層のルールの徹底を図ることが必要と考えられます。また、個人情報保護法の施行により個人情報の取扱いが厳しくなっており、教職員、学生における個人情報管理に関する啓発活動が大切になっています。個人情報の流出は場合によっては大学のブランドイメージの低下につながるおそれもあるためリスク管理の一環として大学全体で情報管理教育を継続的に実施していかなければなりません。このように今後の IT 教育環境としてはインフラなどのハードウェアの充実とインフラを安定的に運用・保守するノウハウの蓄積及び安全な情報管理体制の確立、さらには、情報の利用モラル遵守のための教育が求められています。環境情報学部では、他に先駆けてこれらの課題の解決に向けて日々、活動と努力を続けています。

現在、本学では、学部の新設に向けて様々な取組みが行われています。情報システムに限ると現在は各キャンパスのネットワークインフラはキャンパス毎に管理され、統合的な運用が行われていないということが指摘されています。また、教員の教育・研究用システムと事務職員用の総務・教務システムなどが別システムとして運用されているということも明らかになっています。このため、学内業務の効率向上が大きな課題となっています。情報システムは大学全体にとっての頭脳、神経に相当するものであり、事務部門業務効率化と教育・研究支援向上のための統一的な情報システム構築は喫緊の優先実施項目と考えられます。

本学部の IT 環境の整備と運用実績の蓄積は着実に進められて来ましたが、これからは大学組織の拡大にともない情報システムの統合化が必須となります。具体的には、e ラーニングコンテンツを研究室、教室などでいつでも利用できる環境を整備し、授業教材コンテンツを統一した形式で電子化することが学生の授業支援の上でも大切です。また、学生の身分証明書である IC カードを全キャンパスの施設入退室管理や授業出席管理、証明書発行などに利用することも検討すべきでしょう。これと併せて情報管理、情報倫理などのソフト面での教育、啓発活動が必要です。このようにして本学部を含めて大学全体として IT インフラを戦略的に整備していくことにより 10 年後には教職員、学生にとってかけがいのない IT 教育環境が出来上がっているものと期待しています。

SUWA Keisuke

武蔵工業大学環境情報学部情報メディア学科教授・同学部情報メディアセンター所長